

ロザリオ ピアッコ

登録番号：第1405号

登録年月日：昭和62年8月7日

登録者：植原宣紘（山梨県甲府市善光寺1-12-2）

育成者：植原宣紘

来歴：「ロザキ」と「マスカット・オブ・アレキサンドリア」の交雑実生

特性

■栽培特性

黄白色の本格的高级品種。純粹のヨーロッパ種で、育成者植原宣紘氏の傑作である。花振りや裂果が少なく、薬剤防除も「ネオ・マスカット」程度で耐病性が強く、ヨーロッパ種としては栽培が比較的容易である。しかし、この品種は他の品種に比較して萌芽が遅れ、新梢が不揃いになりやすい。樹勢は旺盛で、新梢は太く、若木時代は特に徒長しやすい。徒長した新梢は、その翌年の萌芽が著しく遅れ、生育が不揃いになる。萌芽が遅れた新梢に着房した果房は果粒の着色が青緑色となり黄白色にならず、糖度は15~16度程度でとまり、それ以上あがらない。萌芽を促進し、新梢の生育を揃える樹勢調節がこの品種の栽培に成功するカギとなる。そのためには弱せん定により芽数を多く残し、芽掻きによって新梢の生育を揃える。新梢は伸長を始めると急激で、開花期は「シャインレッド」に比べて5~7日遅れるが収穫期は早い。花房は開花1週間前頃副穂を除去し、さらに主穂の支梗を上部から小さい房なら2~4段、大きい房は5~6段除去し、さらに房先を軽く切り詰め、果房全体で20段程度とする。また、上段の支梗で大きいものは果房の形が乱れるので切り詰める。摘房は1枝1房とし、最終的には1㎡当たり3房程度、10a当たり1500~1800kgを目標とする。果粒の大きさが小豆大になった頃25ppmのジベレリンで果房を処理すると、穂梗および支梗を太く、しっかりさせ、収穫後果房の日持ちをよくすることができる。摘粒はやや早めに行ない、1果房40~50粒とし、地域の出荷計画に合わせて最終的に、500~700gの果房に仕上げる。摘粒後、果粒汚染防止のため袋掛けを行ない、収穫前5~7日に除袋する。除袋が早過ぎると果房が汚染して商品価値が落ちる。収穫は9月上旬。

■果房の特性

自然状態の果房は有岐円錐形で極大、整形により円錐または円筒形となる。粒着は密、果粒の形は倒卵形、大きさは非常に大、平均12g程度で大きいものは16g程度のものもあり、「ネオ・マスカット」の6~8gと比較して約2倍に達する。果皮は黄緑色で、厚さは中、果粉の多少は中、果皮と果肉の分離は困難である。果肉は黄白色、肉質は崩壊性でやや軟、甘味は高く、容易に20度に達する。酸味は少、香氣はなく、「マスカット・オブ・アレキサンドリア」がマスカット香を有しているのと異なる。果汁の多少は中、食味、風味が極めて良好、種子の多少は少、種子の大きさは中である。裂果性はなく、果実の日持ちは良好で、輸送性は良好である。

■病害虫抵抗性

「ネオ・マスカット」とほぼ同程度であるが、べと病にやや弱い。「シャインレッド」等、早生甲斐路群に準じて防除を行なう。

■地域適応性

花振りがなく、糖度が高く、裂果性、脱粒性がなく、防除も「ネオ・マスカット」並みであることから栽培は比較的容易である。土壌の適応性は広く「ネオ・マスカット」の適応地域ではほぼ安定した栽培が可能であるが、火山灰土壌や沖積層土壌ではねむり病に注意した栽培が必要である。

(吉田賢児)